



2024年10月期第2四半期 決算説明資料

セルソース株式会社（東証プライム 4880）

2024年6月13日

- 1 CEOメッセージ
- 2 2024年10月期 第2四半期業績
- 3 整形領域の加工受託サービスの事業戦略
- 4 各種KPI
- 5 その他事業進捗

CEOメッセージ

現場、現状を理解。セルソースの真の強みを再定義

現場主義

- 全国22件のクリニックを訪問、約40名の医師、看護師と対話
- 患者の診察に立ち会いニーズを理解
- クリニックのバックヤードに入り、オペレーションを理解
- 社員全員と個別にディスカッションし、現場の課題を抽出

必要なアクション

- 提携医療機関のニーズに応じたサービスの提供
- 営業リソースのアロケーションやオペレーションの高度化
- ハイブリッド型医療機関への営業強化と自費診療特化型医療機関との協業拡大

新たな認識

- 我々の事業は、患者・医師・看護師・専門スタッフが信頼感で繋がるエコシステムに存在
- 患者を含む医療現場全ての人のQOL向上が我々の目的
- 医療現場へのリスペクトと感謝が我々の事業の原動力

セルソースの最大の強みは医療現場との強固な信頼関係に基づくネットワーク

5ヶ月で見た現状認識と変革への道筋
非連続的成長への戦略は、中期経営計画として発表予定

		現状認識	変革への道筋	現状分析と今期アップデート
加工受託事業	自費診療特化型整形外科	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関のマーケティング成否に依拠 ボラティリティが高い 	<ul style="list-style-type: none"> 自費診療特化型整形外科との協業強化 ハイブリッド型整形外科への営業強化 PFC-FD™(2.0)の導入など、プロダクトの競争力を強化 	<ul style="list-style-type: none"> 整形領域の加工受託サービスの事業戦略 p.16-27 PFC-FD™(2.0)の立ち上がり p.28 1日平均加工受託件数の改善 p.34、35
	ハイブリッド型整形外科	<ul style="list-style-type: none"> 事業成長余地が極めて大きい ボラティリティが低い 		
新規事業	新規事業	<ul style="list-style-type: none"> 収益への未貢献 	<ul style="list-style-type: none"> 新規事業への戦略的投資はメリハリをつけて継続 	<ul style="list-style-type: none"> その他事業進捗 p.37-39
コスト構造	運営コスト	<ul style="list-style-type: none"> CPC・本社移転により上昇 	<ul style="list-style-type: none"> 今期中のCPC移転・集約により今後一定水準で安定運用 	<ul style="list-style-type: none"> 販売管理費の推移 p.12
	戦略コスト	<ul style="list-style-type: none"> 各コストの費用対効果の精査が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> 新規事業への戦略的投資はメリハリをつけて継続 	<ul style="list-style-type: none"> 戦略コストの投下状況 p.13

2024年10月期 第2四半期業績

売上高

22.2億円
(前年同期比+2.6%)

営業利益

2.8億円
(前年同期比-57.3%)

四半期純利益

2.9億円
(前年同期比-26.8%)

売上高営業利益率

12.6%
(前年同期比-17.8pt)

血液由来

加工受託件数(当期累計)

10,516件
(前年同期比-14.9%)

脂肪由来幹細胞

加工受託件数(当期累計)

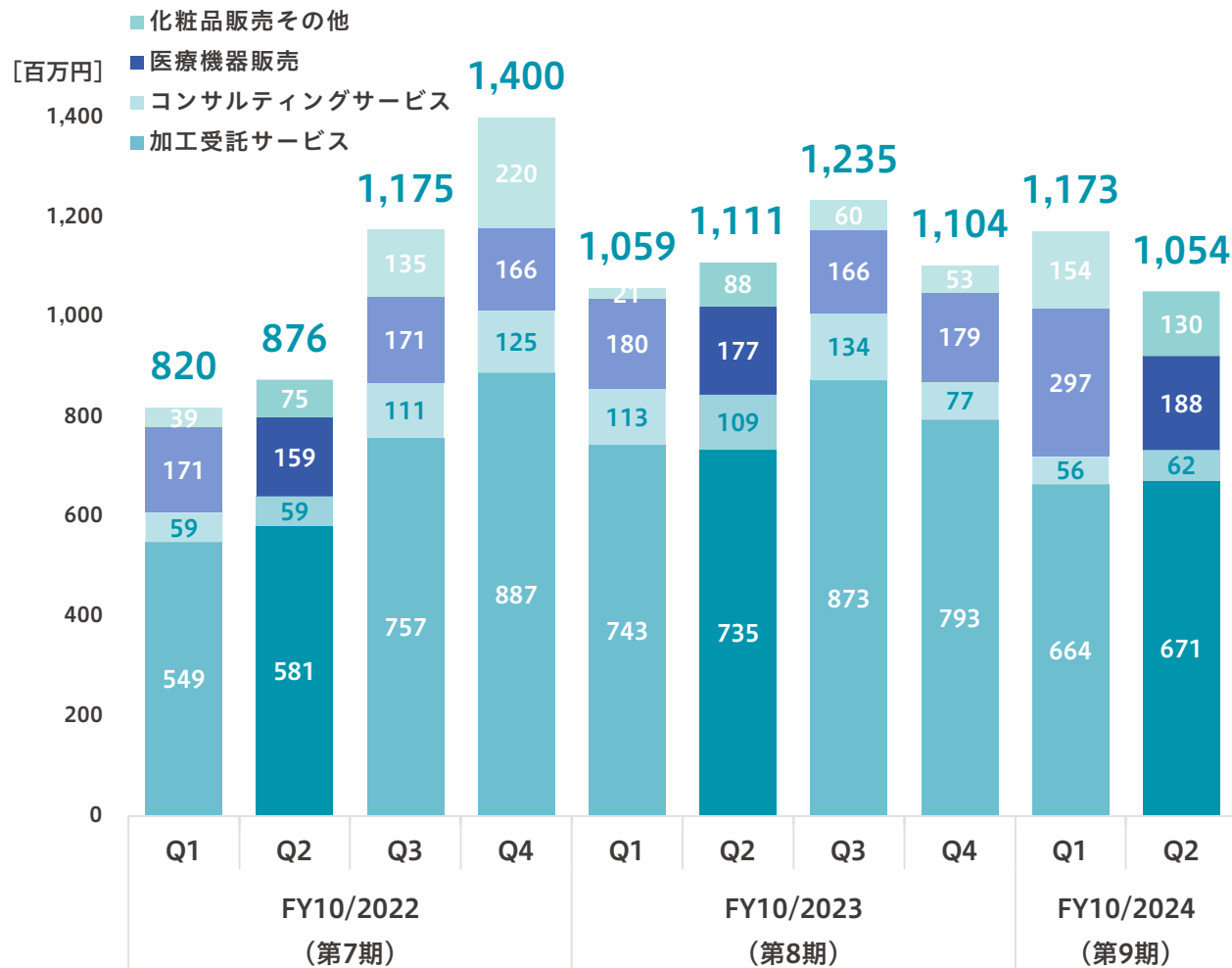
739件
(前年同期比-28.6%)

[百万円]	FY10/2024 Q1	FY10/2024 Q2	前Q比	FY10/2023 Q2累計	FY10/2024 Q2累計	前年同期比	通期業績 予想	進捗率
売上高	1,173	1,054	-10.3%	2,170	2,227	+2.6%	5,368	41.5%
売上総利益	763	661	-13.4%	1,542	1,424	-7.6%	-	-
売上総利益率	65.1%	62.7%	-2.4pt	71.1%	64.0%	-7.1pt	-	-
営業利益	205	75	-63.3%	659	281	-57.3%	1,003	28.0%
営業利益率	17.5%	7.2%	-10.3pt	30.4%	12.6%	-17.8pt	-	-
経常利益	208	179	-13.7%	650	388	-40.3%	1,037	37.4%
四半期純利益	143	156	+8.5%	410	299	-26.8%	719	41.7%

血液由来加工受託件数 (件)	5,314	5,202	-2.1%	12,363	10,516	-14.9%
脂肪由来幹細胞加工受託 件数 (件)	371	368	-0.8%	1,035	739	-28.6%

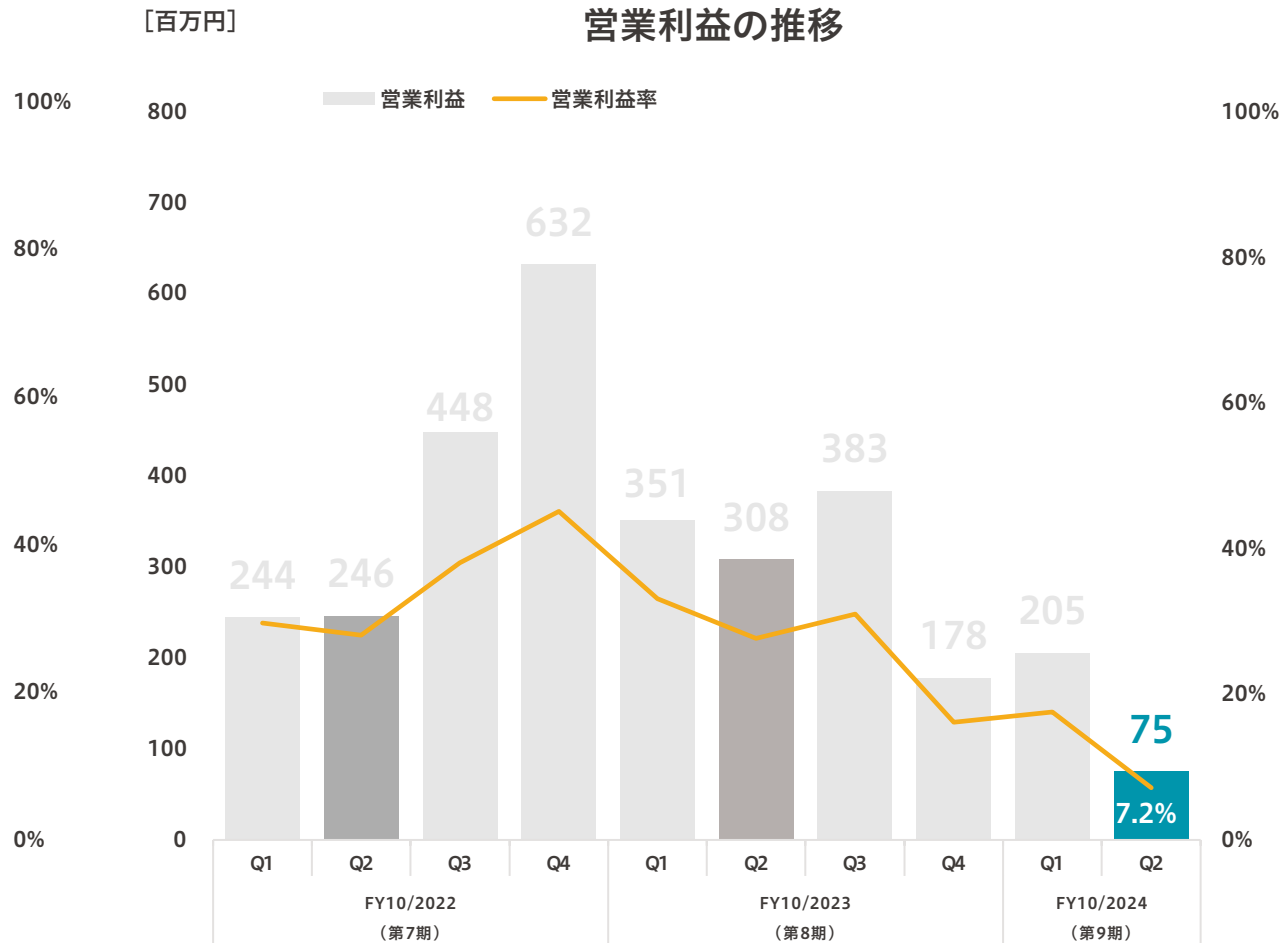
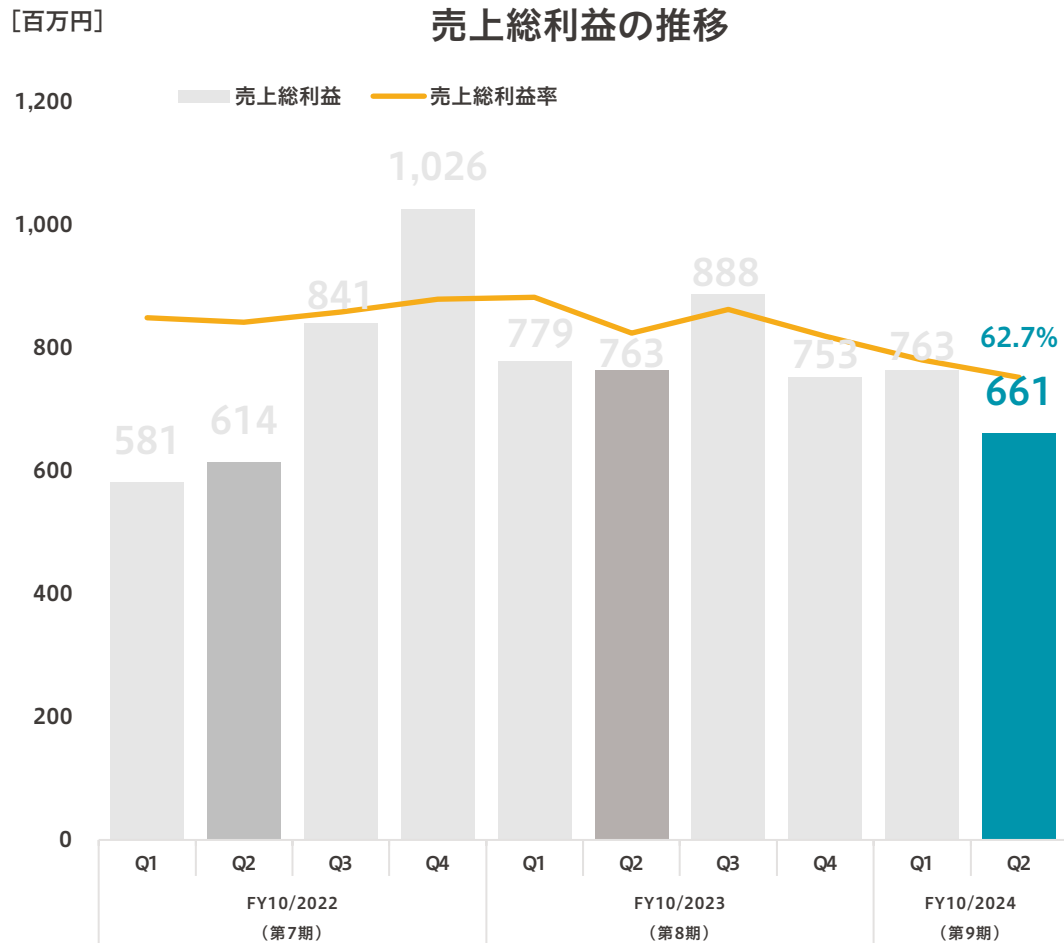
- **売上高**：加工受託サービス売上は前Q比微増も、医療機器販売と化粧品販売の売上が減少し、全体では前Q比10.3%の減収
- **売上総利益率**：化粧品販売の売上総利益率低下により前Q比2.4pt低下
- **営業利益率**：人件費を中心に、販売管理費が前Q比増加。売上総利益減少と販売管理費増加を受け、営業利益率は前Q比10.3pt低下
- **四半期純利益**：投資有価証券売却益と補助金収入により、四半期純利益は前Q比8.5%の増益で着地
- **加工受託件数**：PFC-FD™ (2.0)のリリースにより4月より復調も、医療機関営業日数の少ない2月の低迷等により前Q比微減

2四半期連続で減少していた加工受託サービス売上は下げ止まり、足元の受託件数は回復基調。
前Qに大きく拡大した医療機器販売の揺り戻しにより、全体の売上高は前Q比減少



	前期Q2累計	当期Q2累計	前年同期比
合計	2,170	2,227	+2.6%
加工受託サービス	1,478	1,336	-9.6%
コンサルティングサービス	222	119	-46.3%
医療機器販売	358	486	+35.6%
化粧品販売その他	110	285	+157.9%

売上総利益率の前Q比の変動は、主に化粧品販売事業の利益率低下に起因（p.11）。
 営業利益率が低下基調にあるのは、主に新拠点関連コストと戦略コストの投下によるもの（p.12、13）



売上総利益率の前Q比の主要な変動要因は、化粧品販売事業内の出荷製品構成の変化による。
Q4以降発生するZERO LABの不動産関連費用以外に、固定性原価を増加させる大きな要素はない見込み

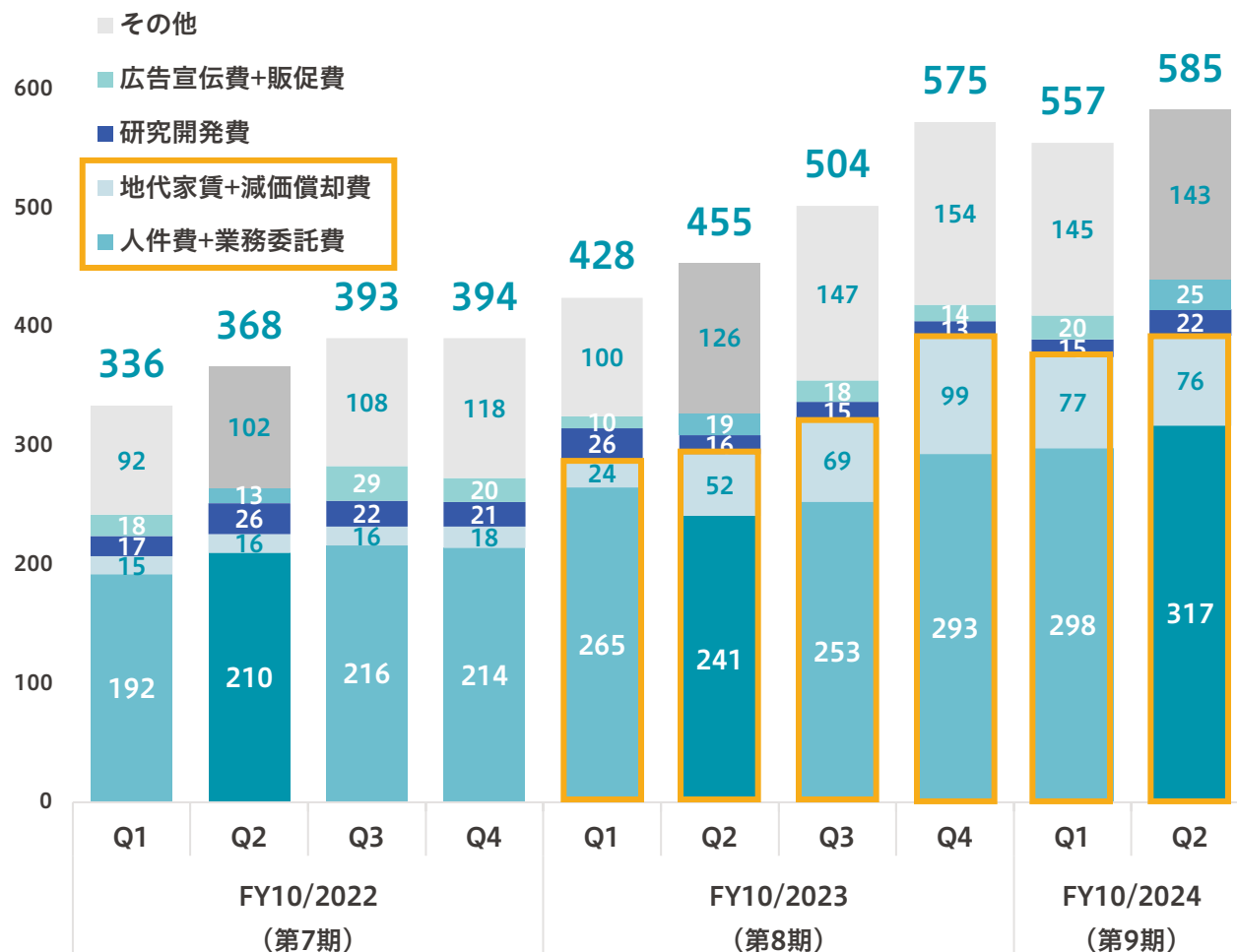
概要

今後の見通し



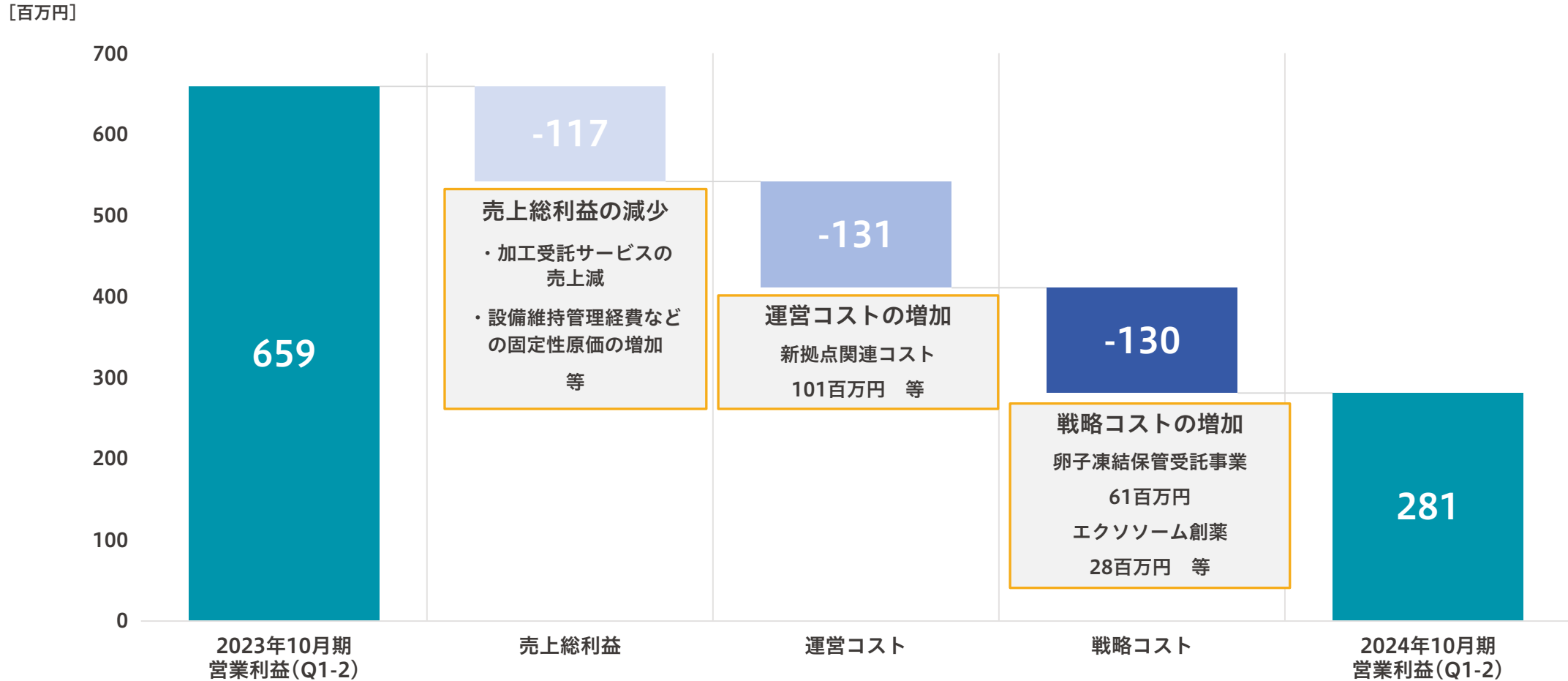
人員拡充、オフィス移転、新製造拠点の取得により、成長に向けた基盤整備が完了

[百万円]



	前期Q2累計	当期Q2累計	前年同期比
合計	883	1,143	+29.4%
人件費+業務委託費	506	616	+21.7%
地代家賃+減価償却費	76	154	+101.0%
研究開発費	43	37	-11.8%
広告宣伝費+販促費	30	45	+50.8%
その他	226	288	+27.6%

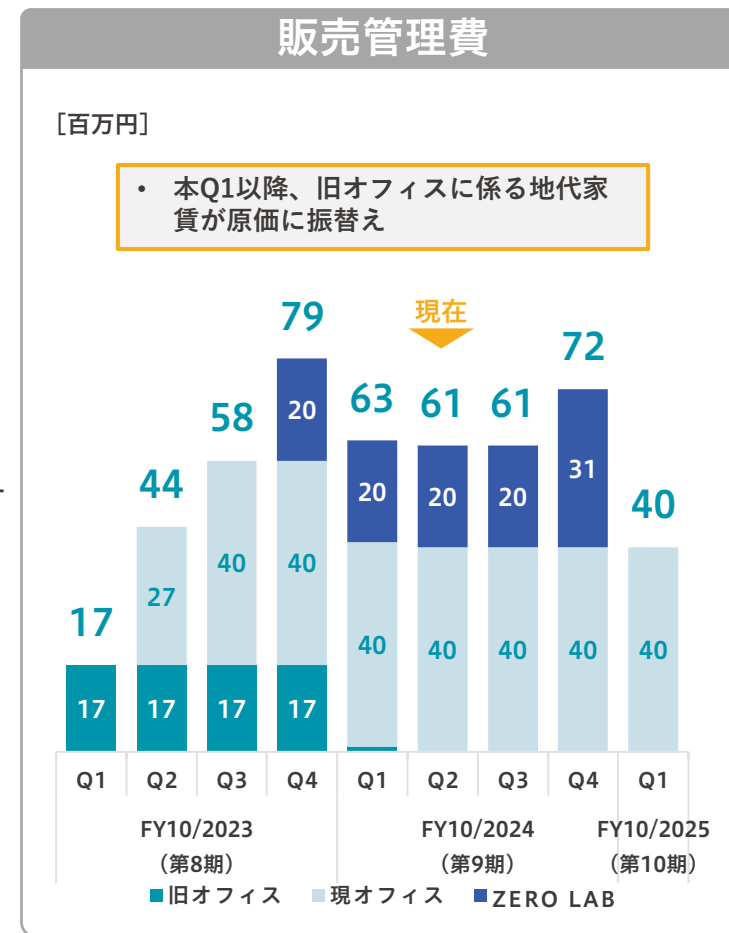
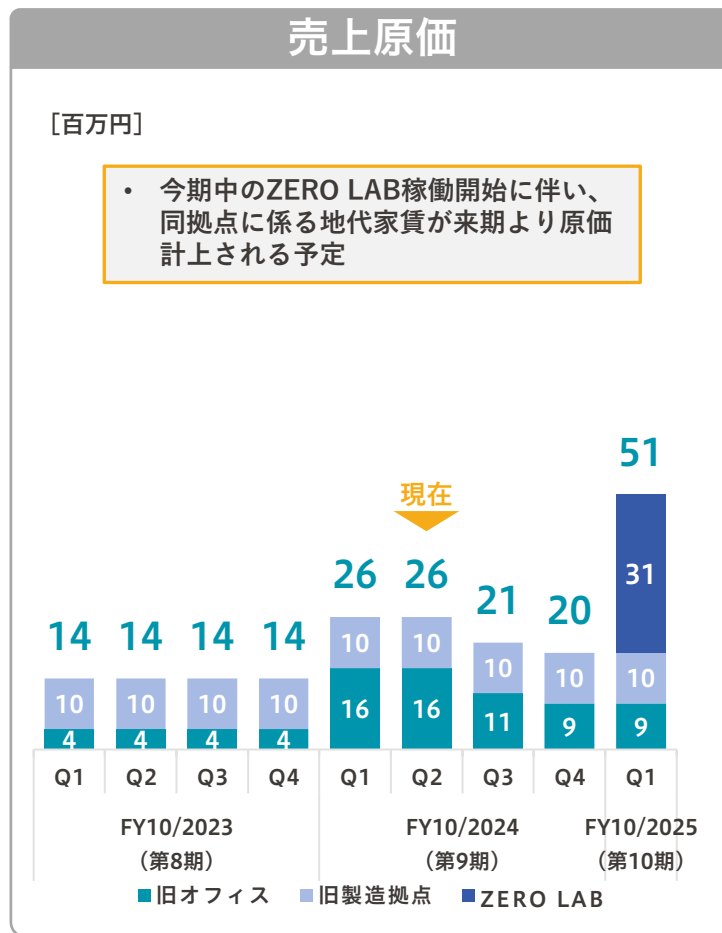
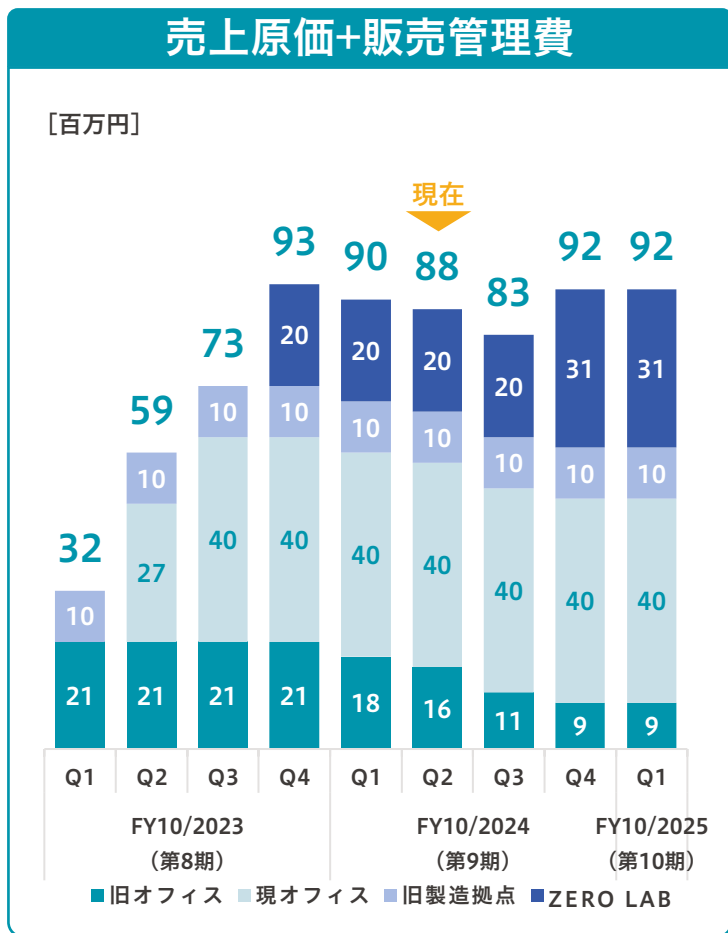
運営コスト^{*1}のうち、新拠点の地代家賃を含む固定性費用については今後の増加は限定的
 戦略コスト^{*2}は、下期に予定する研究開発費を含め規律を持って投下していく見込み



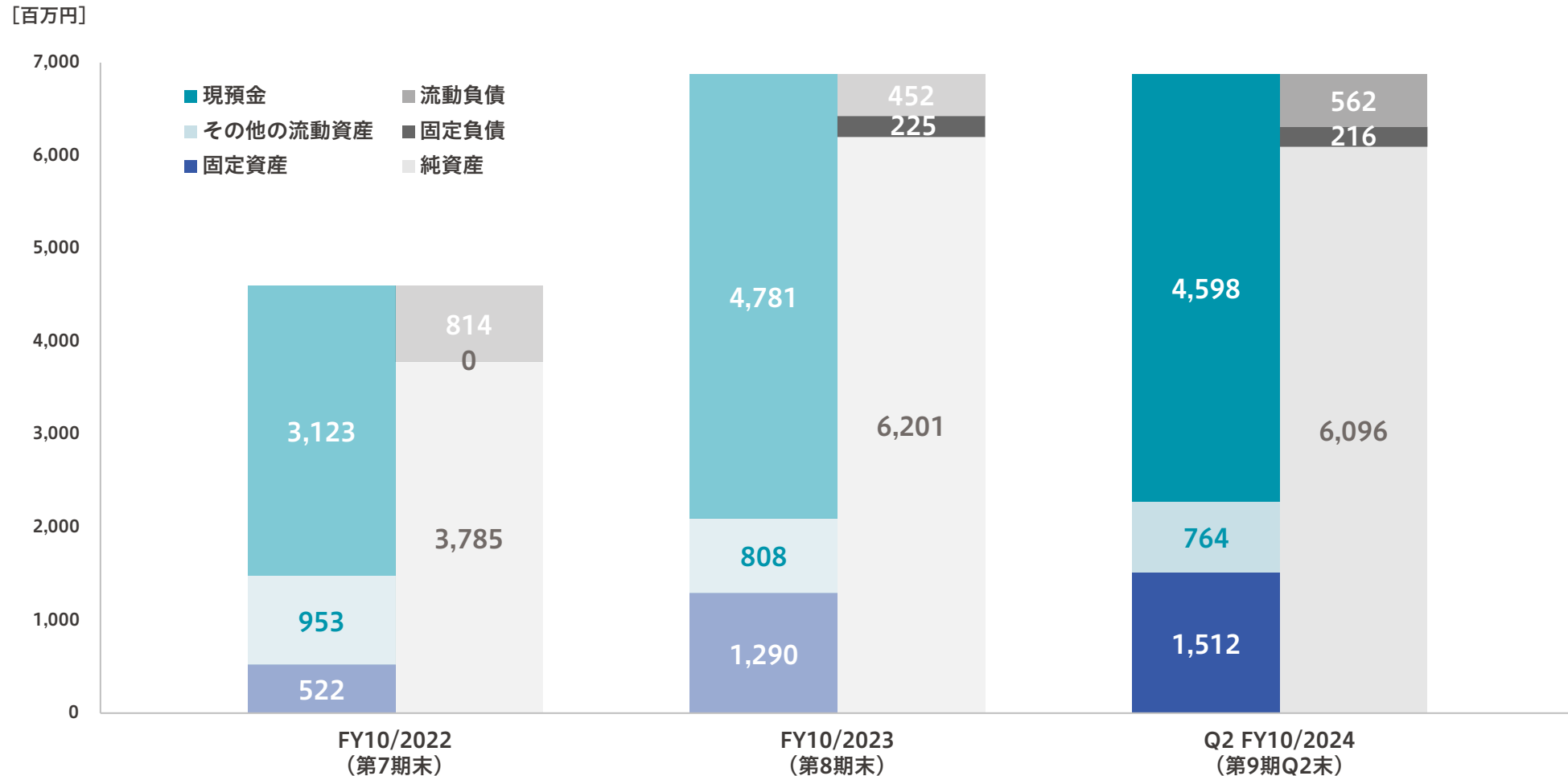
*1: 戦略コスト以外の販売管理費

*2: 販売管理費のうち卵子凍結保管受託事業、エクソソーム創薬、海外事業及び経営・人材戦略に関連するコスト

販売管理費として計上しているZERO LABの地代家賃を、今期中の稼働開始に伴い原価計上する見込み。
旧オフィス及び旧製造拠点の撤退に伴い、販売管理費の地代家賃は低減する見込み



新拠点関連で固定資産が増加。強固な財務基盤を引き続き堅持。
今後のキャッシュアロケーションの方針については、中期経営計画にて発表予定



整形領域の 加工受託サービス事業戦略

**対象市場の
ポテンシャル**

変形性膝関節症の推定患者数は多く、マーケットのポテンシャルは巨大と認識。再生医療等は従来療法と異なるアプローチとして患者ニーズのギャップを埋めることが可能と理解

事業戦略骨子

整形領域の提携医療機関数は順調に拡大したが、ハイブリッド型医療機関における「1院あたりのオーダー数」には成長の余地あり

新規提携医療機関数の拡大は当面優先度を下げ、既存医療機関へのサポート強化を通じた「1アクティブ医療機関あたりのオーダー数」の引き上げに注力

**PFC-FD™ (2.0)
立ち上がり**

PFC-FD™ (2.0)は、自費診療特化型およびハイブリッド型医療機関のオーダー数向上に寄与し、ハイブリッド型医療機関のオーダー数は4月・5月連続で今期最高を更新

整形領域の加工受託サービス事業戦略は下半期を通して実行。
 中期経営計画公表時には一定の成果を示す目標

FY10/2024

FY10/2025

Q2

Q3

Q4

Q1

Q2

● 6月 Q2決算発表（現在）

● 12月 中期経営計画公表予定

PFC-FD™ (2.0)
立ち上がり

ローンチ・
受託件数積上げ

売上貢献

ASC新技術
立ち上がり

ローンチ・
受託件数積上げ

売上貢献

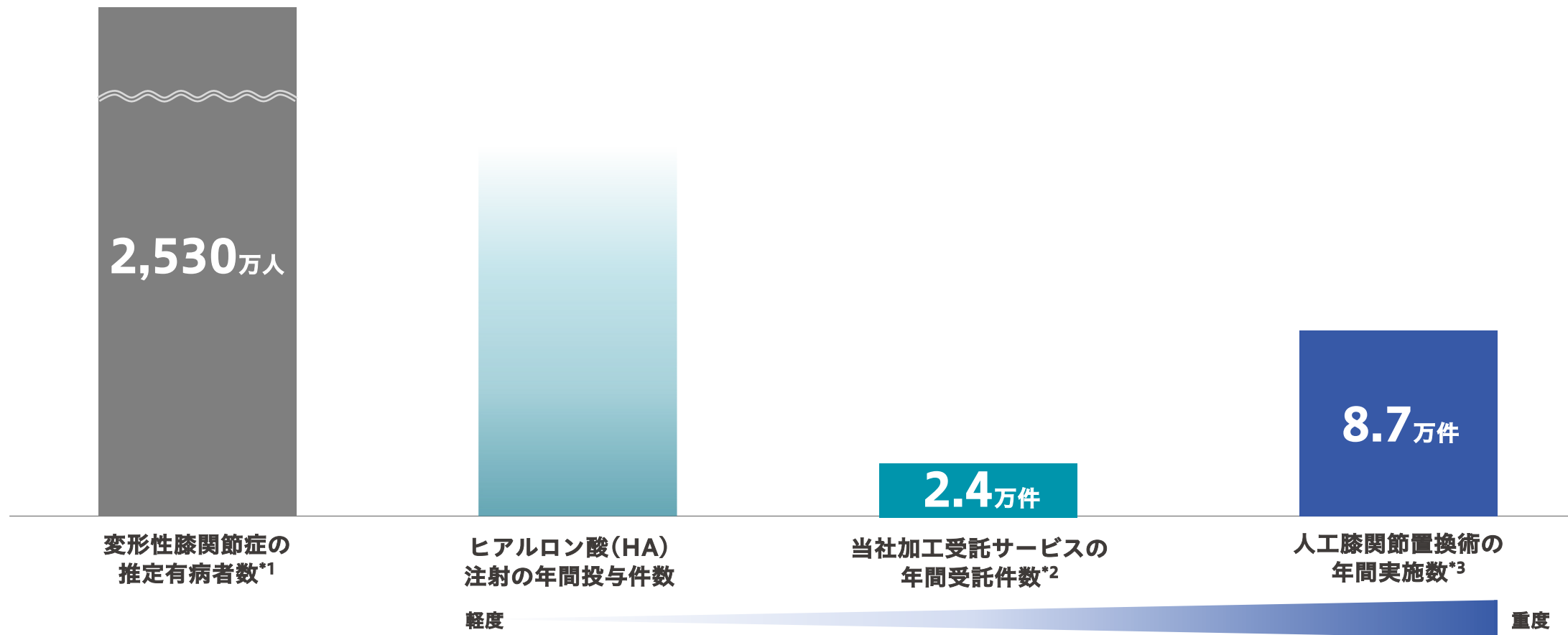
加工受託事業戦略

営業
新体制

施策
仕込み

(各施策が順次) 売上貢献

変形性膝関節症の推定患者数と人工膝関節置換術の実施件数の間に巨大な潜在マーケットが存在。
 当社のPFC-FDTM・ASCを含む再生医療等は従来療法と異なるアプローチとして患者ニーズのギャップを埋める



*1: Yoshimura N et al. Prevalence of knee osteoarthritis, lumbar spondylosis and osteoporosis in Japanese men and women : the Research on Osteoarthritis / osteoporosis Against Disability (ROAD) . J Bone Miner Metab. 2009 ; 27 : 620-8.

*2: 2023年5月～2024年4月の整形外科に対する当社の加工受託サービス受注データに基づく

*3: 日本整形外科学会: 「JOANR年次報告2022年度版」 https://www.joa.or.jp/joa/files/JOANR_annual_report_2022.pdf における人工関節置換術（膝）総数

整形領域の提携医療機関数は順調に拡大してきたが、ハイブリッド型医療機関におけるアクティブ率及び、アクティブ医療機関あたりオーダー数に伸び代が存在する状況

	自費診療特化*2	ハイブリッド*3	全体
提携医療機関数	16院	1,304院	1,320院
×			
アクティブ率*4 (年間)	100%	58%	58%
×			
アクティブ医療機関 あたりオーダー数	792件/年	11件/年	27件/年
オーダー数	12,674件	7,985件	20,659件

*1: 2023年5月～2024年4月の受注データに基づく

*2: 自費診療特化型の整形外科のうち、主力のクリニックグループを指す

*3: 整形外科のうち、*2の自費診療特化型クリニックグループを除く医療機関

*4: 2023年5月～2024年4月の間に、1件以上オーダーのあった医療機関の比率

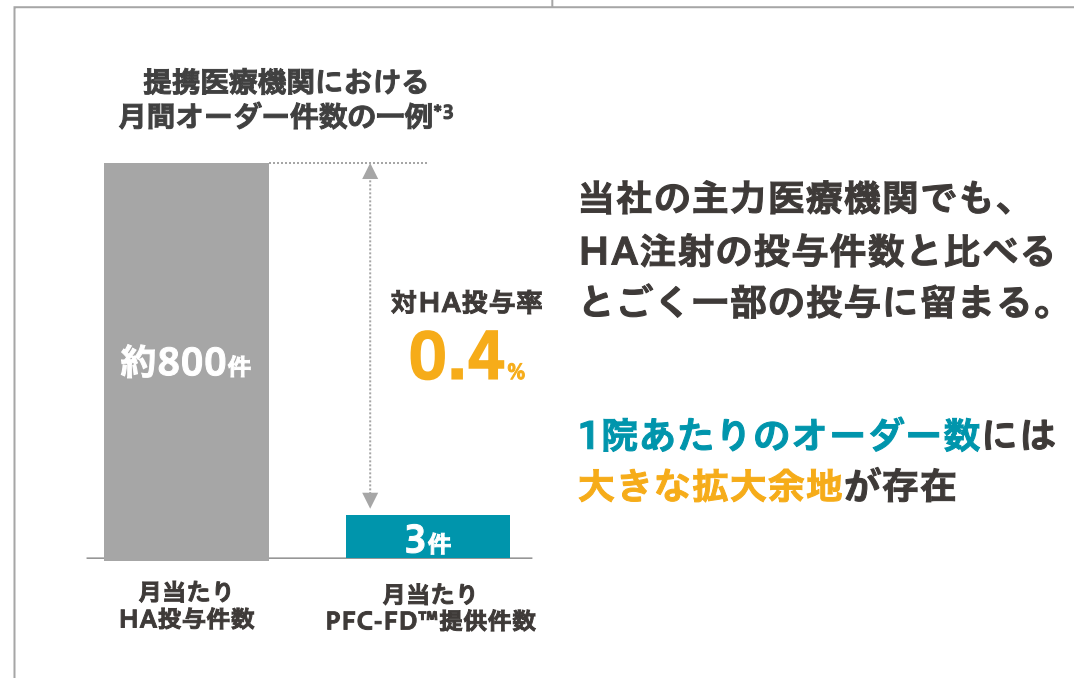
オーダー数の構成要素を分解すると、**提携医療機関数**及び**1院あたりオーダー数**となるが、
双方で広大な拡大余地が存在

オーダー数

提携医療機関数

×

1院あたりオーダー数

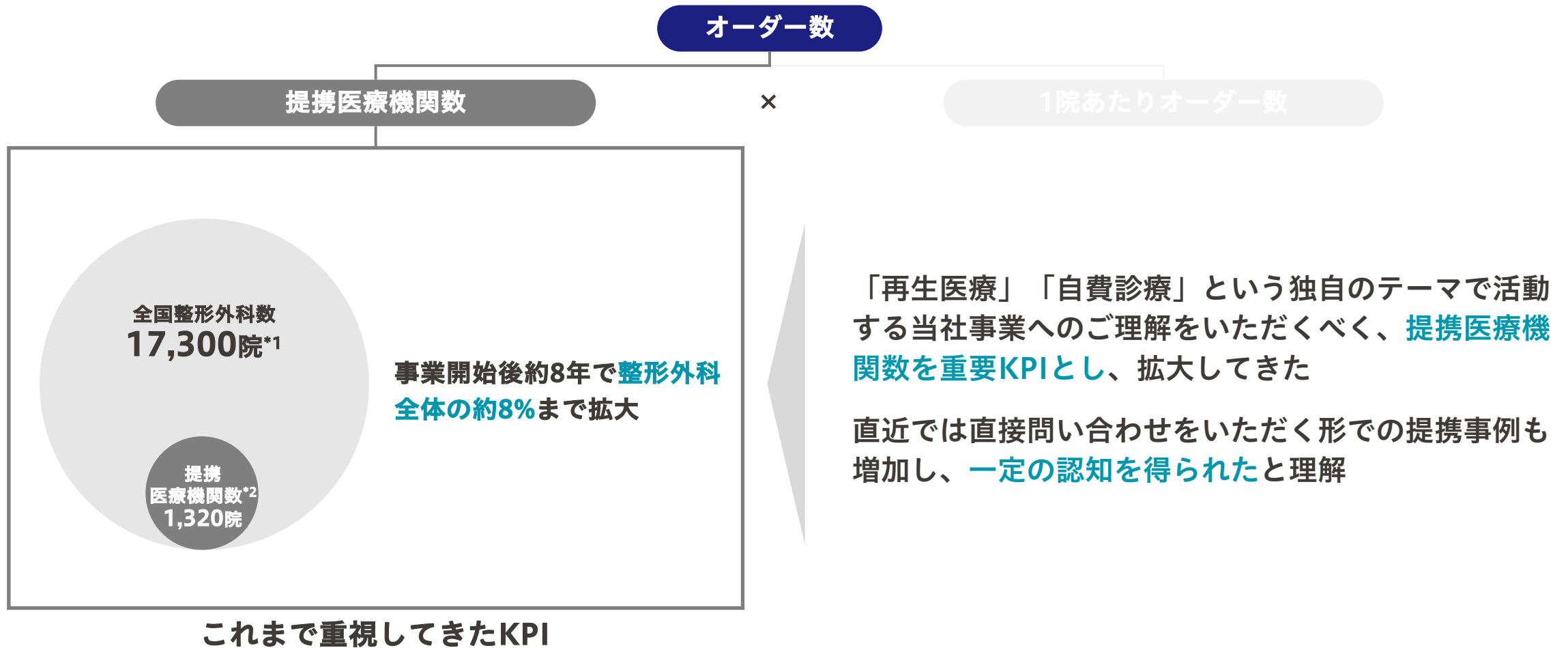


*1: 厚生労働省:「令和2(2020)年医療施設(静態・動態)調査(確定数)・病院報告の概況」において診療科目を「整形外科」と標ぼうする施設数に基づく推計

*2: 2024年4月末の当社の提携医療機関数のうち当社が整形外科領域として区分しているもの

*3: 当社の提携医療機関へのヒアリングに基づく実例

新規営業による提携医療機関数の拡大については、**当面は優先度を下げる方針**

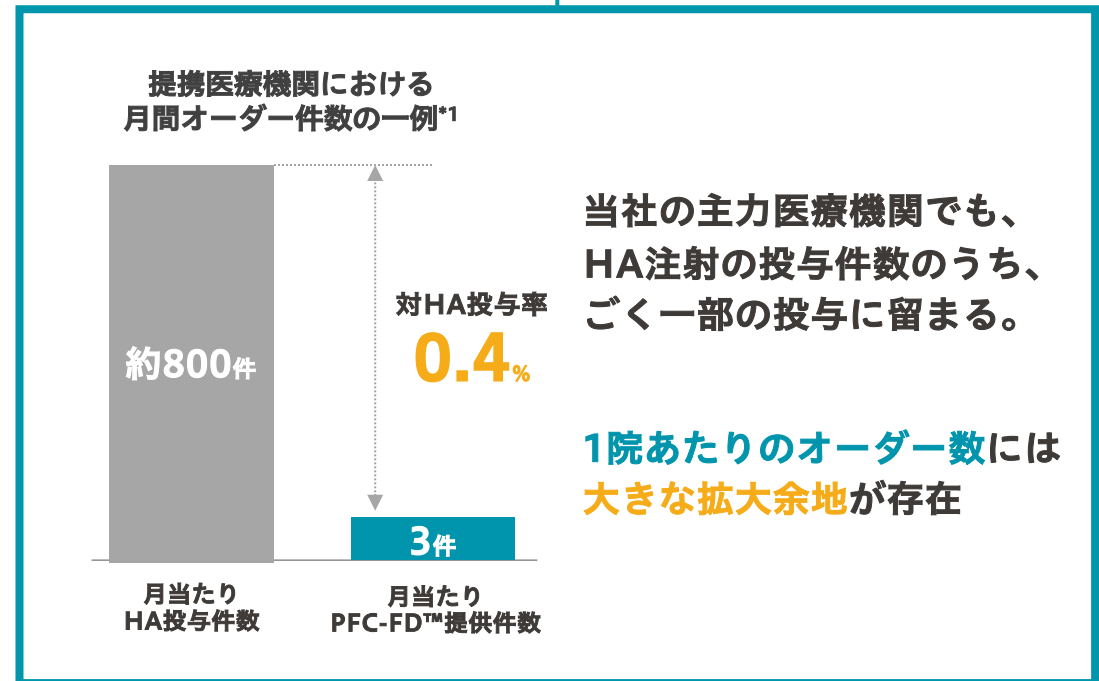


医療機関へのサポート強化を通じて、1院あたりオーダー数の引き上げを重視する



1院あたりオーダー数に課題がある反面、HA注射の投与件数は非常に多く、**膝関節症に悩む患者は確実に来院している状況**

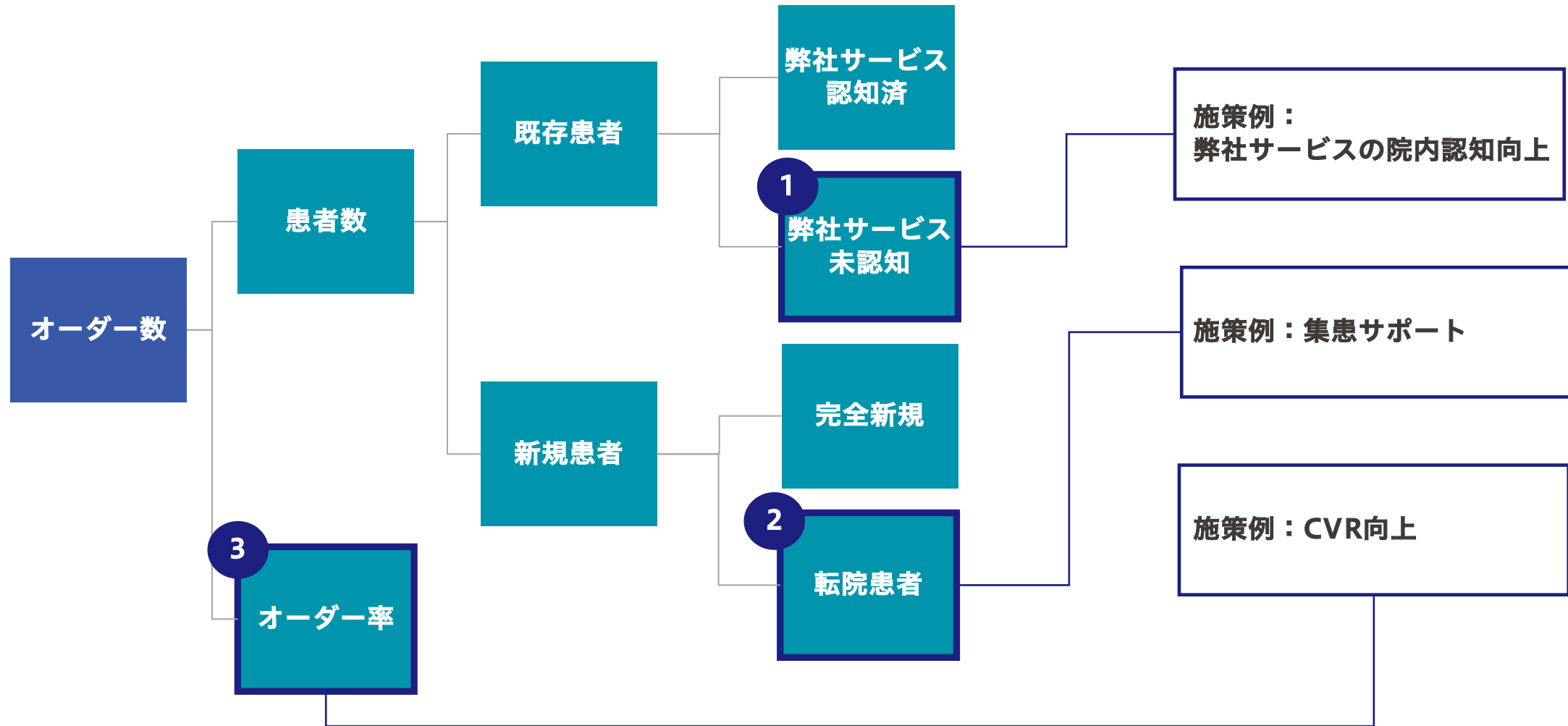
提携済み医療機関へのサポート強化を通じて、**1院あたりのPFC-FD™のオーダー数引き上げを優先する方針**



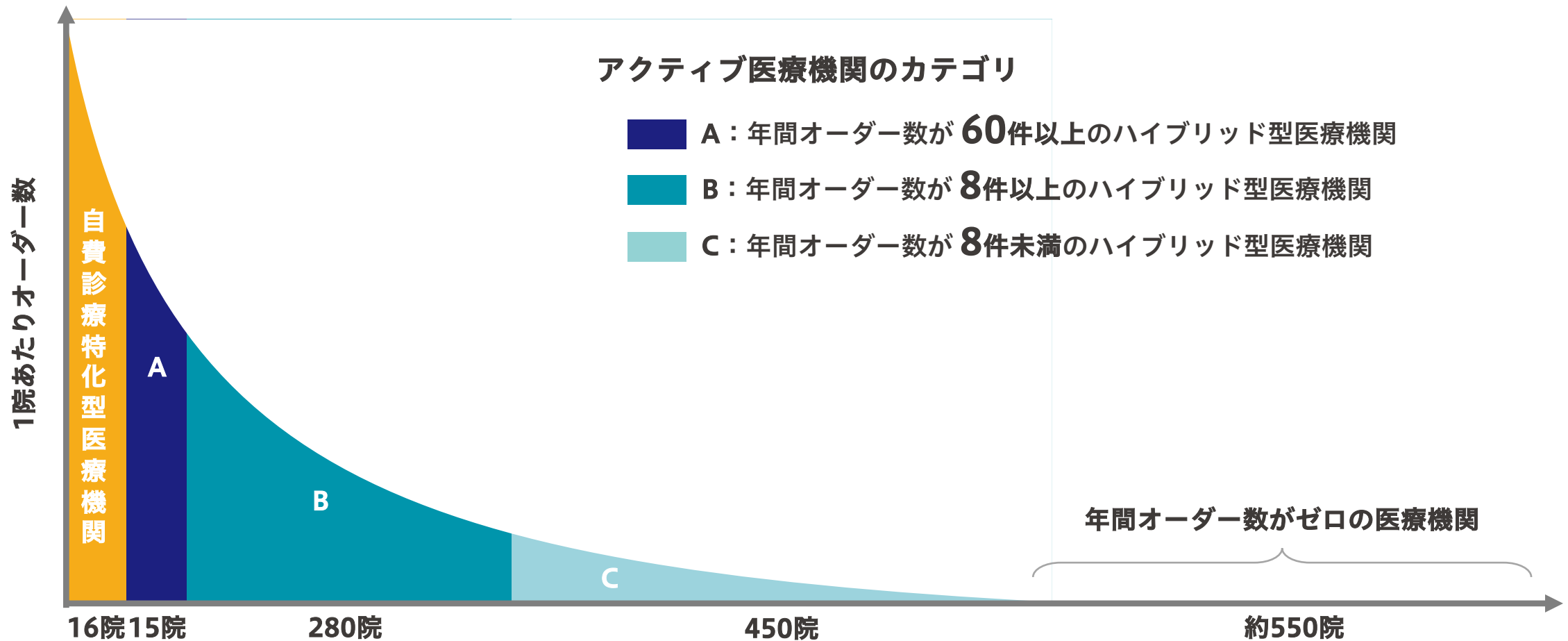
今後重視するKPI

*1: 当社の提携医療機関へのヒアリングに基づく実例

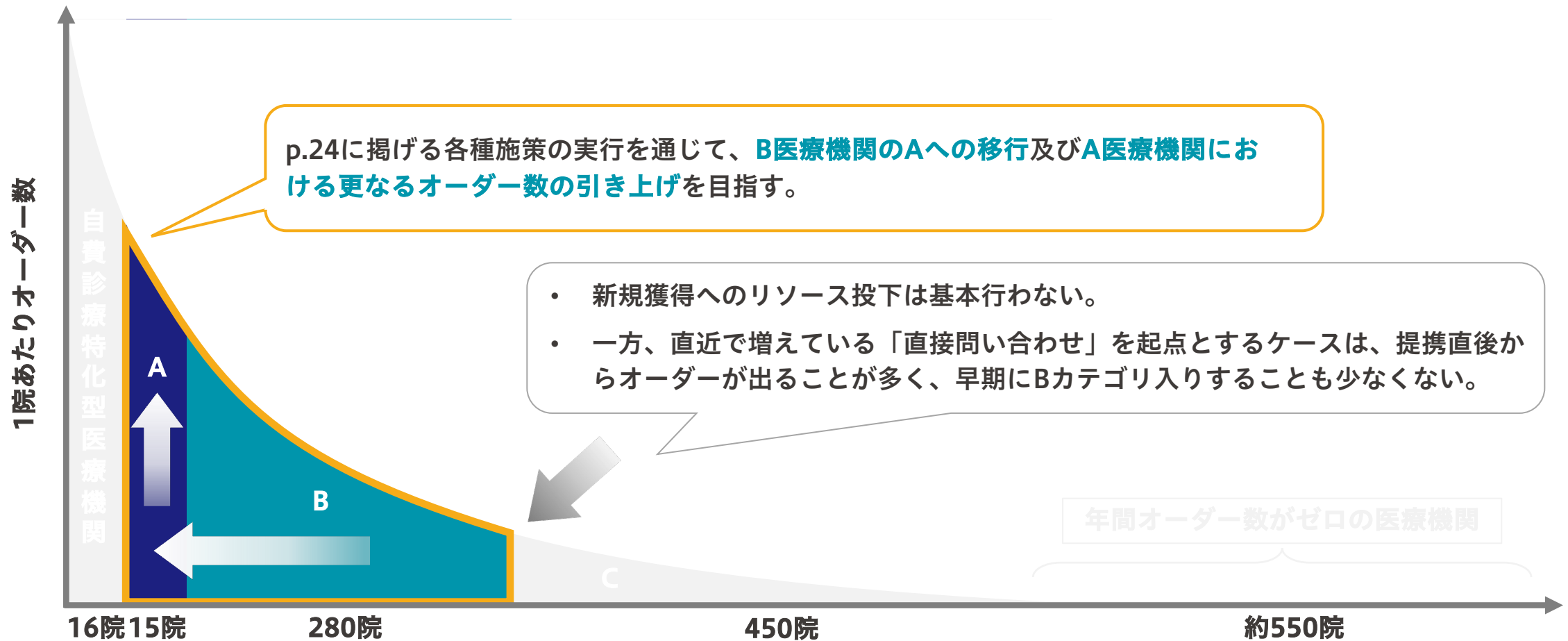
医療機関におけるオーダー数をKPIに分解し、注力するサポート項目を明確化



提携済のアクティブ医療機関を年間オーダー数に応じて3つのカテゴリに分類。
 ハイブリッド型医療機関におけるオーダーの約8割は、A・Bに属する医療機関からもたらされている



提携済のアクティブ医療機関を年間オーダー数に応じて3つのカテゴリに分類。
 ハイブリッド型医療機関におけるオーダーの約8割は、A・Bに属する医療機関からもたらされている



ハイブリッド型医療機関の「アクティブ医療機関あたりオーダー数」向上を通じて、
オーダー数を着実に増加させていく

	自費診療特化*2	ハイブリッド*3	合計	
提携医療機関数 ×	16院	1,304院	1,320院	自然増加を期待出来るKPI
アクティブ率*4 ×	100%	58%	58%	
アクティブ医療機関あたりオーダー数 	792件/年	11件/年	27件/年	ターゲットとして設定するKPI
オーダー数	12,674件	7,985件	20,659件	

*1: 2023年5月～2024年4月の受注データに基づく
 *2: 自費診療特化型の整形外科のうち、主力のクリニックグループを指す
 *3: 整形外科のうち、*2の自費診療特化型クリニックグループを除く医療機関
 *4: 2023年5月～2024年4月の間に1件以上オーダーのあった医療機関の比率

当初の狙い通り自費診療特化型*1・ハイブリッド型医療機関*2双方のオーダー数増加に寄与し、
ハイブリッド型医療機関のオーダー数は4月・5月連続で当期最高を更新

経緯

- ・ 抗炎症作用や組織修復作用が期待できる成長因子を従来よりも多く含有する「PFC-FD™ (2.0)」を4月にリリース
- ・ 従来サービスは「PFC-FD™ Basic」として提供

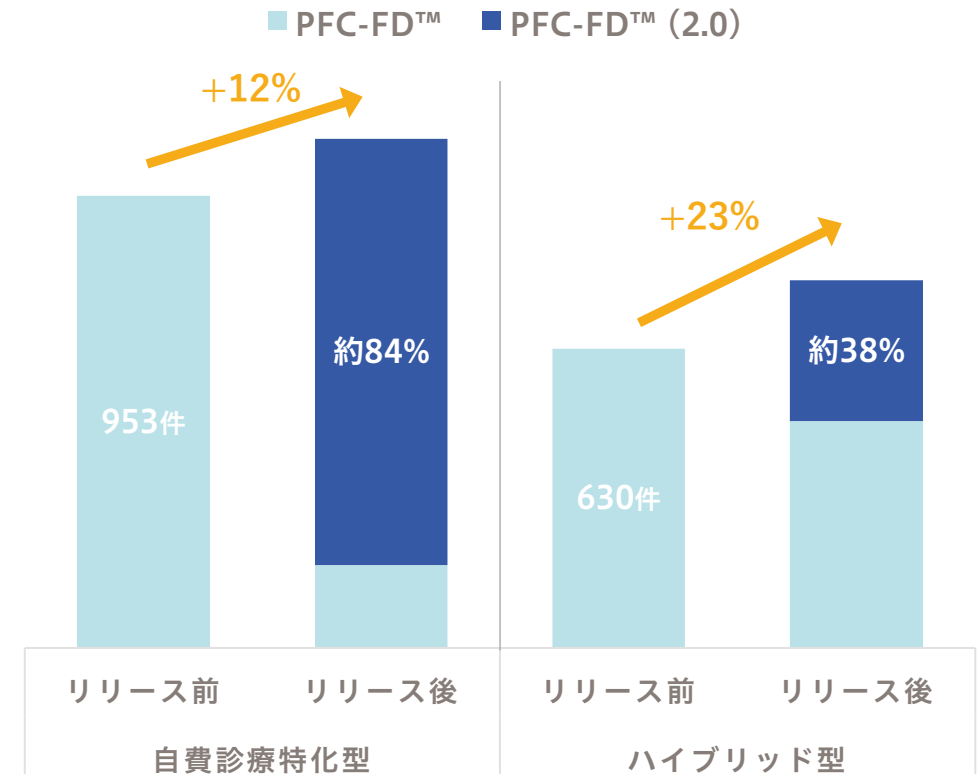
狙い

- ・ 以下を通じて、医療機関がこれまでオーダーに至っていなかった患者へソリューションを提供できる
 - ・ サービスの選択肢拡大により様々なステージの患者が最適な治療法を選択いただける
 - ・ 価格が障壁となっていた患者に対しては、「PFC-FD™ Basic」を提供できる

足元の状況

- ・ 自費診療特化型医療機関、ハイブリッド型医療機関の双方でオーダー数が増加
- ・ 「PFC-FD™ (2.0)」へのスイッチも順調に進捗

リリース前後*3の月間オーダー数比較



各種KPI

期末提携

医療機関数

1,865院
(前年同期比+308院)

血液由来

加工受託件数(当期累計)

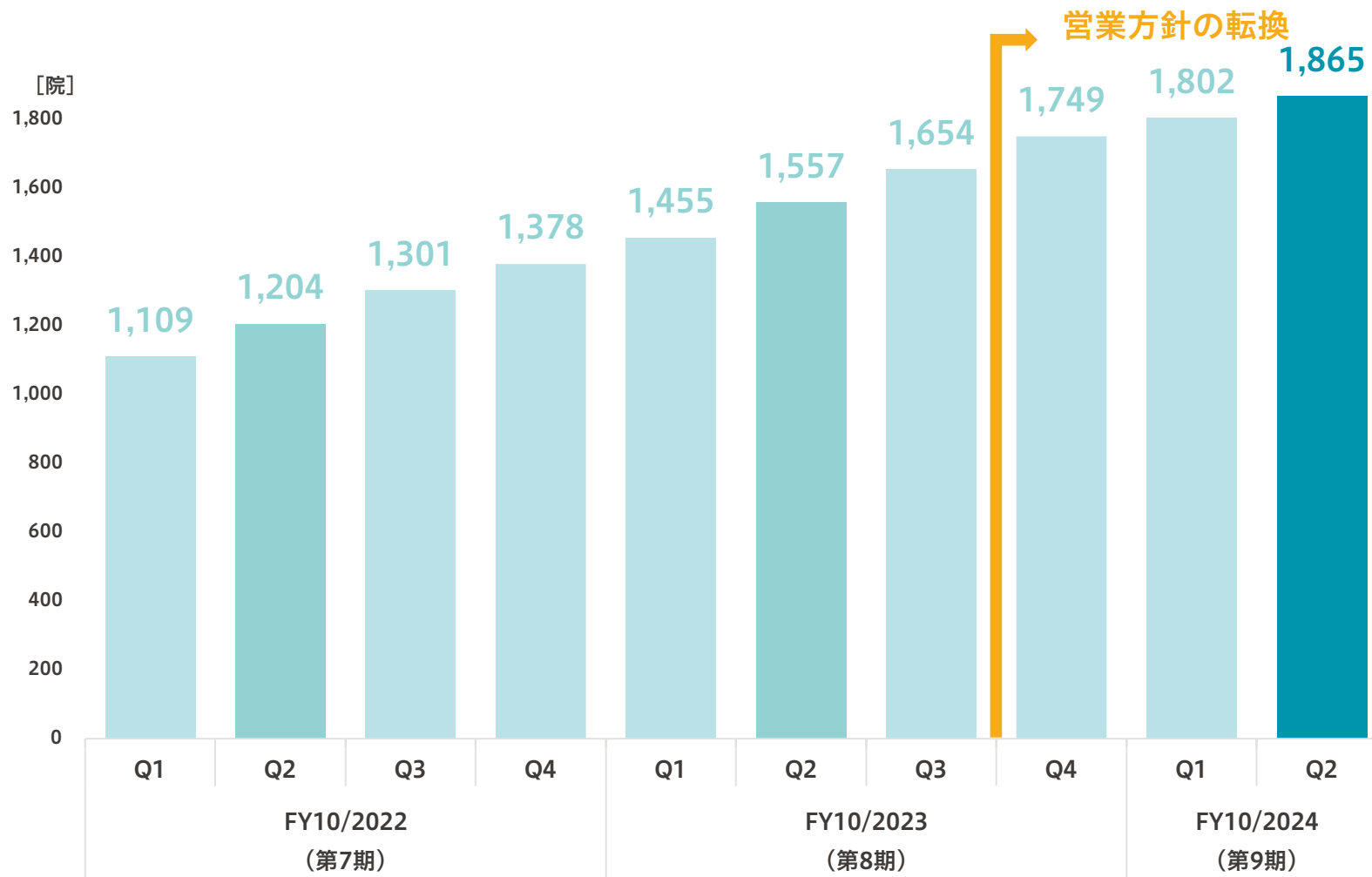
10,516件
(前年同期比-14.9%)

脂肪由来幹細胞

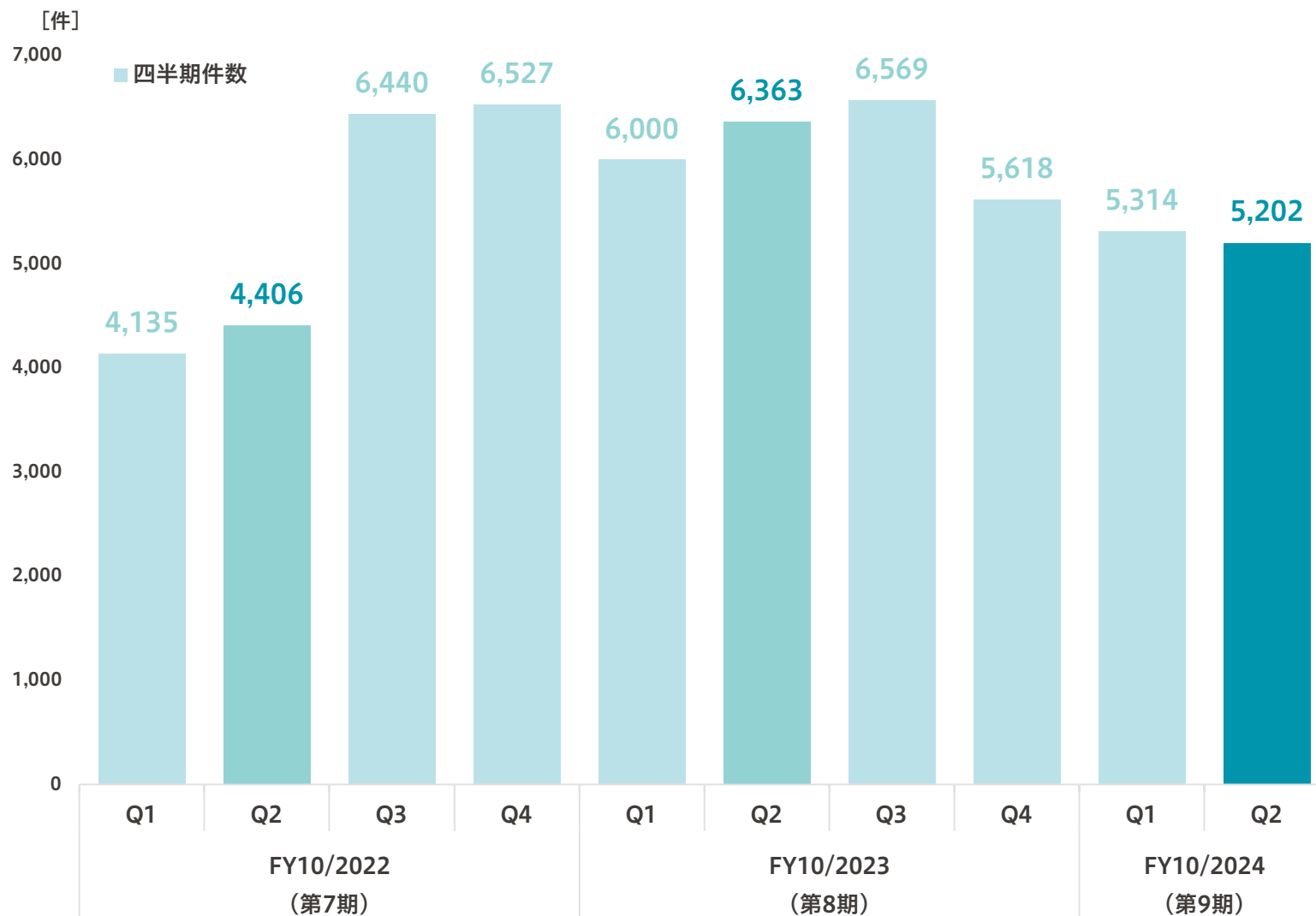
加工受託件数(当期累計)

739件
(前年同期比-28.6%)

営業リソースを新規提携医療機関の獲得から既存提携医療機関からのオーダー数増へシフト中



当四半期末 **1,865** 院
 (前年同期比 +308院)



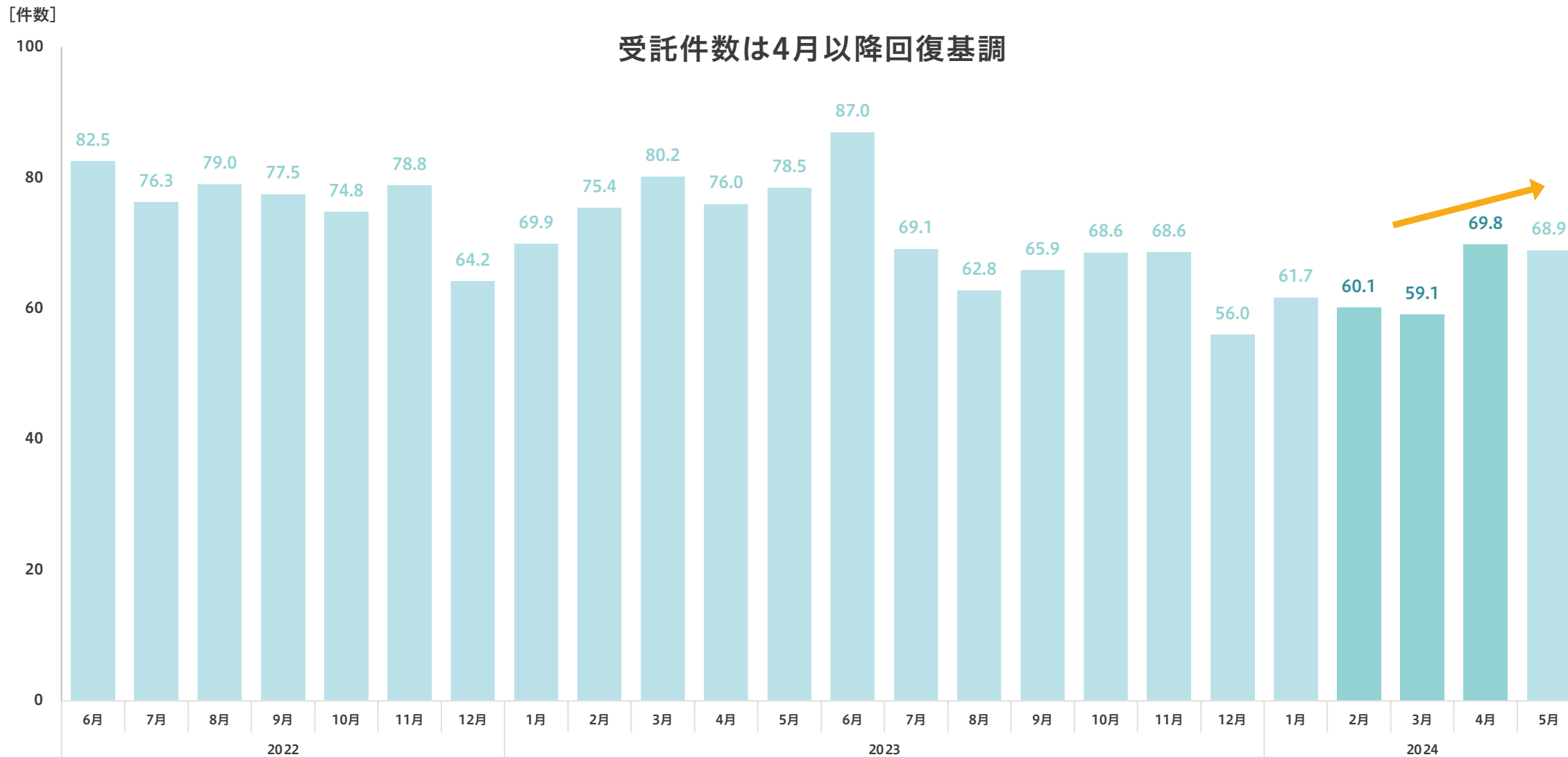
当四半期計 **5,202**件
(前年同期比 -18.2%)

累計 **84,186**件



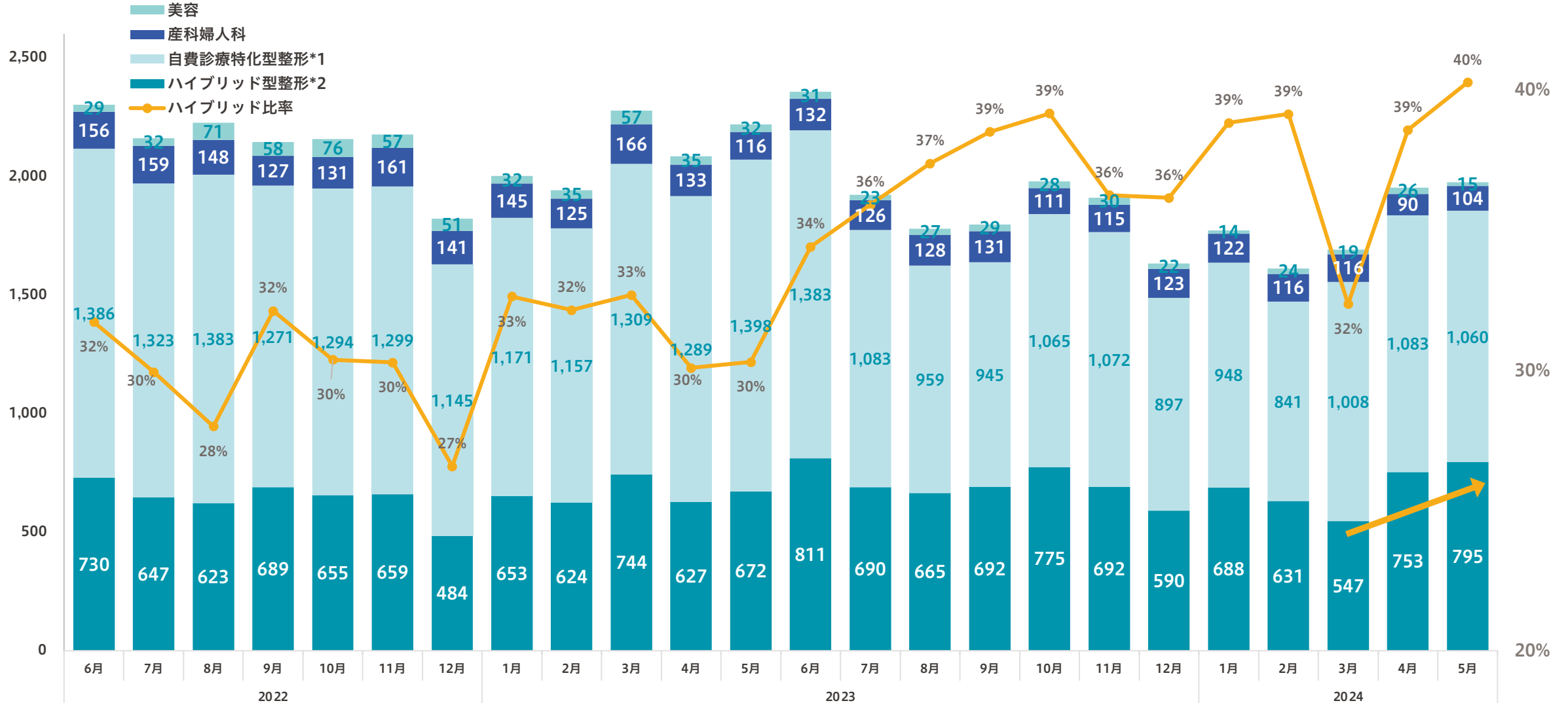
当四半期計 **368**件
 (前年同期比 -28.5%)

累計 **8,359**件



[件数]

ハイブリッド型整形外科からの受託件数は4月、5月と当期最高を更新し、比率も上昇中



*1: 自費診療特化型の整形医療機関のうち、主力の医療法人グループを指す
 *2: 整形医療機関のうち、*1の自費診療特化型医療法人グループを除く医療機関

(百万円)	FY10/2022				FY10/2023				FY10/2024	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
売上高	820	876	1,175	1,400	1,059	1,111	1,235	1,104	1,173	1,054
(加工受託サービス)	549	581	757	887	743	735	873	793	664	671
(コンサルティングサービス)	59	59	111	125	113	109	134	77	56	62
(医療機器販売)	171	159	171	166	180	177	166	179	297	188
(化粧品販売その他)	39	75	135	220	21	88	60	53	154	130
販売管理費	336	368	393	394	428	455	504	575	557	585
営業利益	244	246	448	632	351	308	383	178	205	75
四半期純利益	155	152	280	428	216	194	265	248	143	156
総資産	3,202	3,545	3,825	4,599	4,416	4,812	5,017	6,879	6,807	6,876
純資産	2,884	3,048	3,348	3,785	4,005	4,201	4,487	6,201	5,960	6,096
EBITDA	257	261	464	649	366	323	403	208	234	110
FTE ^{*1}	130	142	145	153	160	176	191	198	208	211
一人当たりEBITDA (千円) *2	1,974	1,844	3,193	4,250	2,297	1,836	2,112	1,050	1,129	522
加工受託件数 ^{*3} (件)	4,488	4,711	6,892	7,071	6,520	6,878	7,186	6,049	5,685	5,570
脂肪由来幹細胞加工受託件 (件)	353	305	452	544	520	515	617	431	371	368
血液由来加工受託件数 (件)	4,135	4,406	6,440	6,527	6,000	6,363	6,569	5,618	5,314	5,202
期末提携医療機関 (院)	1,109	1,204	1,301	1,378	1,455	1,557	1,654	1,749	1,802	1,865

*1: FTE (フルタイム当量) = 社員の総労働時間 ÷ (勤務日数 × 8時間)

*2: 分母の人員数は、FTEを使用

*3: 滑膜由来幹細胞加工受託件数を含まない

FY10/2024より、加工受託件数の集計時点を受託時から出荷時に変更しています。なお、当該変更による影響は僅少であることから、FY10/2023以前の数値は遡及修正を行っていません。

その他事業進捗

受託件数拡大に向けた進捗

卵子凍結保管受託サービスにおける国内No.1シェアを目指す

1 提携医療機関

- 不妊治療専門クリニックを中心に提携先獲得中
- 卵子凍結の新規導入クリニックに対しスムーズな運用開始を支援

提携医療機関数*1

36院

2 企業の福利厚生利用

- 株式会社クリーク・アンド・リバー社と契約締結
- 6月現在、導入検討中の企業複数と交渉中



福利厚生
利用企業数*1

3社

3 啓発活動 マーケティング



- 卵子凍結理解促進のための情報提供サイトオープン
- 医療機関と連携した普及教育の支援
- 一般希望者向け第2回ウェビナー開催

*1: 2024年6月7日現在

動物領域

- 4月：アニコムどうぶつ病院グループでイヌ血小板由来成長因子療法の提供を開始。PARM対象疾患（OA、角膜潰瘍、乾性角結膜炎）以外の疾患にも展開中
- 6月：日本獣医再生医療学会でPARMによる、角膜潰瘍での著効例についてケースレポートを発表

滑膜由来
幹細胞
加工受託

- 提携医療機関数は現在9院。人工関節の実績がある医療機関に対し、低侵襲治療のメリット訴求と症例の積み上げを推進中
- 2023年サービス開始以降、7件投与完了*1

海外事業

- インドでは保健局によるライセンス更新のための手続き中。年内のサービス開始見込み

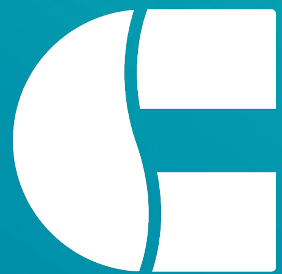
研究・開発
領域

- エクソソーム創薬のフィージビリティースタディーズは進行中

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。

これらは、現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、市場環境、法的規制、品質・安全性の確保及び製造体制、特定の取引先、風評リスク、研究開発、広告宣伝戦略、システム障害等が含まれます。



CellSource